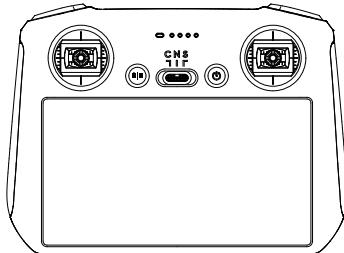




ユーザーマニュアル v1.0 2022.05



🔍 キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探すことができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

👉 トピックへの移動

目次の全トッパー覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

🖨️ 本書の印刷

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

⚠️ 重要

💡 ヒントとコツ

📖 参考

初めて使用する前にお読みください

DJI™ RC をお使いになる前に、以下の資料をお読みください。

1. 製品情報

2. ユーザーマニュアル

DJI 公式サイトにあるすべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、製品情報を読みください。詳細は、このユーザーマニュアルを参照してください。

チュートリアルビデオ

以下のアドレスにアクセスするか、QR コードをスキャンすると、DJI RC のチュートリアルビデオで DJI RC の安全な使用方法の実演を視聴できます。



<https://s.dji.com/guide23>

目次

本マニュアルの使用方法	2
凡例	2
初めて使用する前にお読みください	2
チュートリアルビデオ	2
製品の特徴	4
はじめに	4
概要	5
送信機の準備	6
バッテリーの充電	6
取り付け	6
送信機のアクティベーション	7
送信機の操作	8
バッテリー残量の確認	8
電源のオン／オフ	8
送信機のリンク	8
機体の制御	9
ジンバル＆カメラの操作	12
カスタムボタン	12
ステータスLEDとバッテリー残量LEDの説明	13
送信機のアラート	13
タッチ画面	14
ホーム	14
操作	15
クイック設定	16
コンパスのキャリブレーション	17
ファームウェア更新	17
付録	18
仕様	18

製品の特徴

はじめに

DJI RC 送信機は OCUSYNC™ 映像伝送技術を搭載し、OcuSync 技術対応機体のカメラから伝送された HD ライブ映像を表示します。^[1] この送信機には、様々な制御に対応したボタンやカスタムボタンが搭載され、機体を簡単に制御でき、最大 15 km 先からでも遠隔で機体設定を変更できます。^[2] 送信機は 2.4 GHz と 5.8 GHz の両方で動作し、最適な伝送チャンネルを自動的に選択することができる（日本国内では、5.8 GHz 帯は使用不可）。送信機の最大動作時間は 4 時間です。^[3] 送信機には DJI Fly アプリがプリインストールされているので、飛行状況を確認し、飛行パラメーターやカメラパラメーターを設定することができます。モバイル端末を Wi-Fi 経由で機体に直接接続して映像伝送ができ、機体のカメラで撮影した写真や動画をモバイル端末にダウンロードすることができます。送信機を使用せずに、より高速で便利なダウンロードが楽しめます。

タッチ画面：高輝度 700 cd/m² の 5.5 インチ内蔵スクリーンは、1920×1080 ピクセルの解像度を誇ります。

複数の接続オプション：本製品の Android OS には Bluetooth や GNSS などの様々な機能が搭載されています。Wi-Fi 経由でインターネットに接続できます。

拡張ストレージ機能：送信機は microSD カードに対応しているので、microSD カードに写真や動画をキャッシュで一時保存し、送信機でプレビューできます。^[4]

様々な環境下における信頼性：送信機は、-10°C～40°C の広い温度範囲で正常に動作します。

[1] 異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、送信機は必要なファームウェアバージョンを自動で選択・更新し、リンクされた機体モデルのハードウェア性能において利用可能な伝送技術を使用します。機体モデルと利用できる伝送技術は以下の通りです：

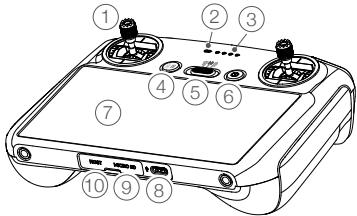
- a. DJI Mini 3 Pro : O3
- b. DJI Mavic 3 : O3+

[2] 最大伝送距離 (FCC) は電波干渉のない広く開けた場所で、高度約 120 m という条件で試験されました。
a. DJI Mavic 3 とリンクされている場合、最大伝送距離 (FCC) は 15 km です。（日本の場合：8 km）
b. DJI Mini 3 Pro とリンクされている場合、最大伝送距離 (FCC) は 12 km です。（日本の場合：8 km）

[3] 最大動作時間は、ラボ環境で試験された値で、参考値です。

[4] microSD カードを挿入することをお勧めします。

概要



1. 操作スティック

操作スティックを使用して、機体の動きを制御します。操作スティックは、着脱可能で簡単に収納できます。DJI Fly のフライトコントロールモードを設定します。

2. ステータス LED

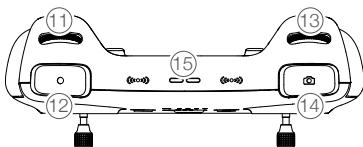
送信機の状態を示します。

3. バッテリー残量 LED

送信機の現在のバッテリー残量を表示します。

4. 飛行一時停止／RTH (Return-to-Home) ボタン

ボタンを1回押すと機体にブレーキがかかり、その場でホバリングを行います (GNSS またはビジョンシステムが利用可能な場合のみ)。長押しすると、RTH を起動します。再度押すと、RTH はキャンセルされます。



11. ジンバルダイヤル

カメラのチルトを操作します。

12. 録画ボタン

1回押すと、録画を開始／停止します。

13. カメラ制御ダイヤル

ズーム制御用です。

14. フォーカス／シャッターボタン

ボタンを半押しするとオートフォーカスが動作し、全押しすると写真を撮影します。

15. スピーカー

音声を出力します。

5. フライトモードスイッチ

Cine (シネ)、Normal (ノーマル)、Sport (スポーツ) の3種類のフライトモードを切り替えます。

6. 電源ボタン

ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認できます。1回押し、次に長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。送信機の電源が入っているときに、1回押すと、タッチ画面のオン／オフを切り替えられます。

7. タッチ画面

画面をタッチして、送信機を操作します。タッチ画面は防水ではありません。慎重に操作してください。

8. USB-C ポート

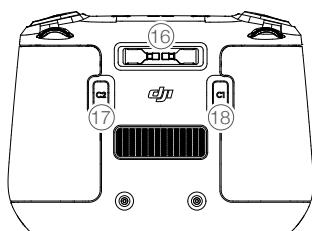
送信機の充電や送信機とパソコンとの接続のために使用します。

9. microSD カードスロット

microSD カードを挿入します。

10. ホストポート (USB-C)

予備ポート。



16. 操作スティック収納スロット

操作スティックの収納用です。

17. カスタムボタン C2

ジンバルの再センタリングとジンバルを下方に向ける機能を切り替えます。この機能は DJI Fly で設定できます。

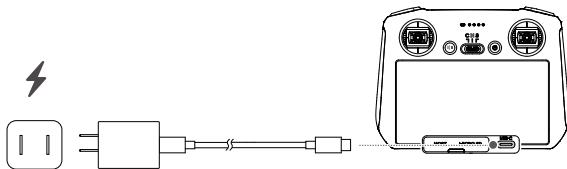
18. カスタムボタン C1

ジンバルの再センタリングとジンバルを下方に向ける機能を切り替えます。この機能は DJI Fly で設定できます。

送信機の準備

バッテリーの充電

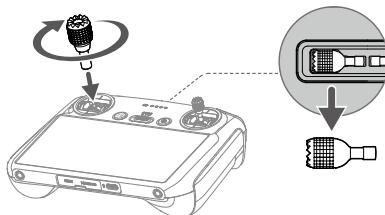
USB-C ケーブルを使用して、USB 充電器を送信機の USB-C ポートに接続します。バッテリーは、最大充電電力 15 W (5V/3A) で約 1 時間 30 分で完全に充電できます。



- 💡 • PD 規格対応の USB 充電器の使用をお勧めします。
• 過放電を防止するため、少なくとも 3 か月に一度はバッテリーを充電してください。バッテリーは長期間保管すると、消耗します。

取り付け

操作スティックを送信機の収納スロットから取り外し、所定の位置にねじって取り付けます。操作スティックをしっかりと取り付けてください。



送信機のアクティベーション

 インターネット 初めて使用する前に送信機をアクティベーションする必要があります。アクティベーション中に送信機がインターネットに接続できることを確認してください。送信機をアクティベーションするには、以下の手順に従ってください。

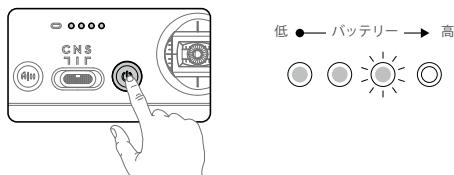
1. 送信機の電源を入れます。言語を選択して「次へ」をタップします。利用規約とプライバシーポリシーをよく読み、「同意する」をタップします。確認後、国/地域を設定します。
2. Wi-Fi経由で送信機をインターネットに接続します。接続したら、「次へ」をタップして続行し、タイムゾーン、日付、時刻を選択します。
3. DJIアカウントでログインします。アカウントを持っていない場合は、DJIアカウントを作成してログインしてください。
4. アクティベーションページで「アクティベーション」をタップします。
5. アクティベーション後、改善プロジェクトに参加するかどうかを選択してください。このプロジェクトは診断情報と使用データを自動送信し、ユーザー体験の向上に役立てることができます。DJIによる個人情報の収集はありません。

 • アクティベーションに失敗した場合は、インターネット接続を確認してください。インターネット接続が正常であれば、再試行して送信機をアクティベーションしてください。問題が続く場合は、DJIサポートにお問い合わせください。

送信機の操作

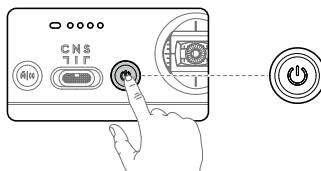
バッテリー残量の確認

電源ボタンを1回押すと、現在のバッテリー残量を確認します。



電源のオン／オフ

ボタンを押し、再度長押しすると、送信機の電源オン／オフを切り替えられます。



送信機のリンク

送信機をコンボとして購入した場合は、送信機はすでに機体にリンクされています。送信機と機体がリンクされていない場合は、以下の手順に従って、アクティベーションした後送信機と機体をリンクさせてください。

1. 機体と送信機の電源を入れます。
2. DJI Fly を起動します。
3. カメラビューで●●●をタップし、[制御]を選択し [機体とペアリングする（リンク）]を選択します。
4. 機体の電源ボタンを4秒以上押し続けます。機体はリンクの準備ができると、ビープ音を1回鳴らします。リンクが確立すると、機体は2回ビープ音を鳴らし、送信機のバッテリー残量LEDが点灯します。

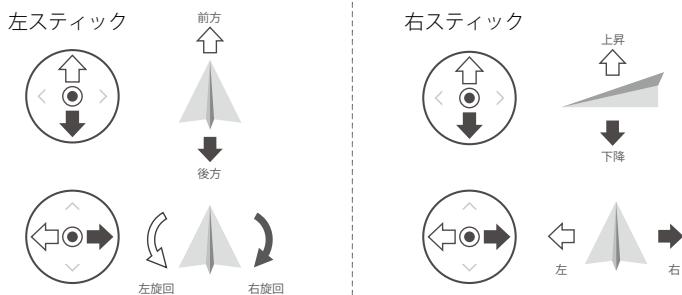
- 💡 • リンクは、送信機が機体から0.5m以内にある状態で行ってください。
• 新しい送信機を同じ機体にリンクさせると、すでにリンクされていた送信機は自動でリンク解除されます。
• 最適な動画伝送には、送信機のBluetoothとWi-Fiをオフにします。

- ⚠️ • 各飛行の前に送信機を完全に充電してください。送信機は、バッテリー残量が低下するとアラート音が鳴ります。
• 送信機の電源がオンの状態で5分間操作をしないと、アラートが鳴ります。6分経過すると、自動的に送信機の電源が切れます。操作スティックを動かすか、任意のボタンを押すと、キャンセルされます。
• バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも3ヶ月に1回はバッテリーを完全に充電してください。

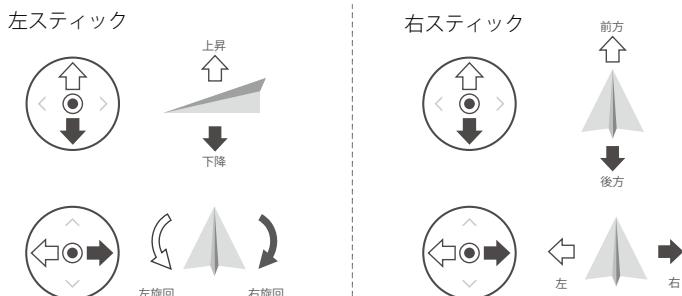
機体の制御

操作スティックを使用して、機体の向き（パン）、前後の動き（ピッチ）、高度（スロットル）、左右の動き（ロール）を制御します。各操作スティックの動きに対応する機能は、操作スティックモードの選択によって決まります。あらかじめプログラムされている3つのモード（モード1、モード2、モード3）を使用でき、DJI Flyでカスタムモードを設定することもできます。

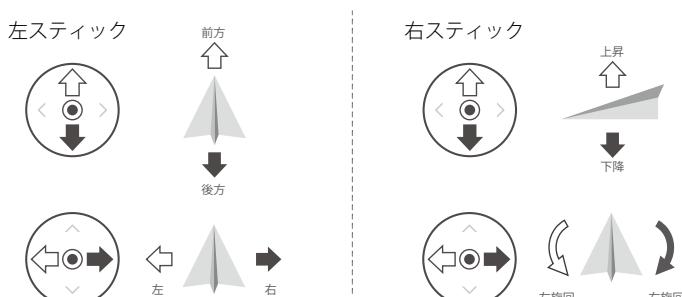
モード1



モード2



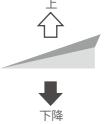
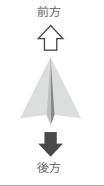
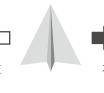
モード3



送信機のデフォルトの制御モードはモード2です。本マニュアルでは、操作スティックの使用方法を説明するために例としてモード2を使用しています。

-  • スティック ニュートラル／中心点：操作スティックはセンター位置にあります。
• 操作スティックの動作：操作スティックを倒して、センター位置から遠ざけます。

下図は各コントロールスティックの使用方法を説明しています。例としてモード2を使用しています。

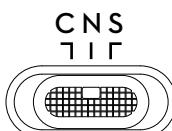
送信機 (モード2)	機体	備考
左スティック 		左スティックを上下に倒して、機体の高度を変更します。上昇させるにはスティックを上に倒し、下降させるには下に倒します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の高度変更速度が速くなります。機体の高度を急激に変えないよう、操作スティックは優しくゆっくりと動かしてください。
左スティック 		左スティックを左右に動かして、機体の進行方向を制御します。スティックを左に倒すと機体は反時計回りに回転し、右に倒すと時計回りに回転します。スティックが中央位置から離れるほど、機体の回転速度が速くなります。
右スティック 		右スティックを上下に倒すと、機体のピッチを変えられます。スティックを上に倒すと前進し、下に倒すと後進します。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。
右スティック 		右スティックを左右に倒すと、機体を左右に移動できます。左に倒すと左に飛び、右に倒すと右に飛びます。スティックが中央位置から離れるほど、飛行速度が上がります。

-  • 送信機が磁気干渉の影響を受けないように、磁性物質から遠ざけてください。
• 操作スティックの損傷を避けるため、輸送時や保管時には、操作スティックを取り外して送信機の収納スロットに入れることをお勧めします。

フライトモードスイッチ

このスイッチを切り替えて、目的のフライトモードを選択します。

位置	フライトモード
C	シネモード
N	ノーマルモード
S	スポーツモード



ノーマルモード（N モード）：機体は、GNSS とビジョンシステムおよび赤外線検知システムを利用して、機体自身の位置を測位し、安定化します。GNSS 信号が強いときには機体は GNSS を使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。GNSS が弱く、周囲が十分に明るく、その他の環境条件が十分揃っている場合、機体はビジョンシステムを使用して機体自身の位置を測位し、安定化を行います。

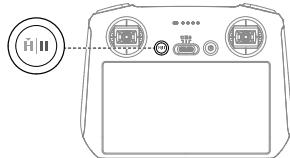
スポーツモード（S モード）：スポーツモードでは、機体は GNSS を使用して測位し、敏捷性と速度に対する機体の反応性が最適化され、操作スティックの動きに対して反応がより機敏になります。スポーツモードでは障害物検知が無効になることに注意してください。

シネモード（C モード）：シネモードはノーマルモードに基づいていますが、飛行速度が制限されるため、撮影中の機体はより安定します。

- ✿ • 様々な種類の機体のフライトモード機能の詳細については、機体のユーザーマニュアルの「フライトモード」のセクションを参照してください。

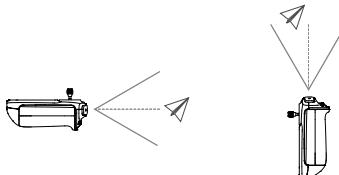
飛行一時停止／RTH ボタン

一度押すと、機体の動作にブレーキがかかり、その場でホバリングします。送信機からビープ音が鳴るまでボタンを長押しして Return to Home (RTH) を開始すると、機体は最後に記録されたホームポイントに戻ります。再度このボタンを押すと、RTH をキャンセルし機体を制御できるようになります。



最適な伝送範囲

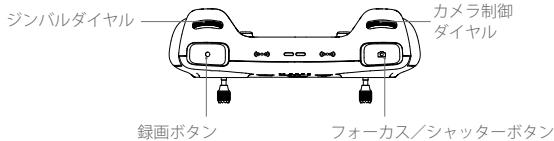
機体と送信機間の信号は、下の図に示すように送信機が機体の方を向いている場合に最も信頼性が高くなります。



- ⚠ • 送信機と同じ周波数で動作する他のワイヤレス端末を使用しないでください。送信機が信号干渉を受ける場合があります。
• 飛行中ににおいて送信信号が弱い場合、DJI Fly にプロンプトが表示されます。送信機の向きを調整して、機体が最適な伝送範囲内にあるようにしてください。

ジンバル＆カメラの操作

送信機でジンバル＆カメラを制御できます。写真と動画は機体に保存され、送信機でプレビューできます。クイック転送機能を使うと、Wi-Fi 経由でモバイル端末を機体と接続できます。写真と動画をモバイル端末に直接ダウンロードでき、送信機を使用する必要はありません。



フォーカス／シャッターボタン：半押しでオートフォーカスが作動し、全押しで写真を撮影します。

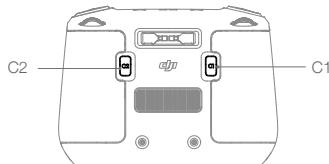
録画ボタン：1回押すと、録画を開始／停止します。

カメラ制御ダイヤル：ズームを調整します。

ジンバルダイヤル：ジンバルのチルトを制御します。

カスタムボタン

カスタムボタンには、C1 と C2 ボタンがあります。DJI Fly の [システム設定] に移動し、[制御] を選択してカスタムボタン C1 および C2 の機能を設定します。



ステータス LED とバッテリー残量 LED の説明

ステータス LED

点滅パターン	説明
	赤色点灯 機体との接続が切断
	赤色点滅 機体のバッテリー残量が低下
	緑色点灯 機体と接続完了
	青色点滅 送信機は機体にリンク中
	黄色点灯 ファームウェア更新に失敗
	青色点灯 ファームウェア更新に成功
	黄色点滅 送信機のバッテリー残量が低下
	水色点滅 操作スティックが中央位置にない

バッテリー残量 LED

点滅パターン					バッテリー残量
					75% ~ 100%
					50% ~ 75%
					25% ~ 50%
					0% ~ 25%

送信機のアラート

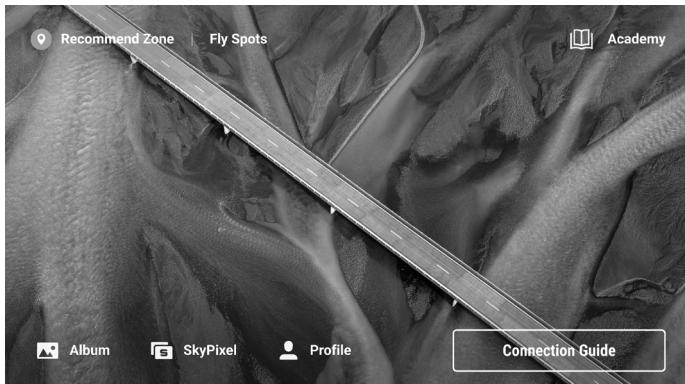
エラーや警告がある場合、送信機からアラート音（ビープ音）が鳴ります。タッチ画面または DJI Fly にプロンプトが表示される場合は注意してください。上から下にスワイプして [ミュート] を選択すると、アラート音が無効になります。もしくは、音量バーを 0 にスライドすると、一部の警告アラート音が無効になります。

送信機は RTH 中にアラート音を鳴らします。RTH 中のアラート音はキャンセルできません。送信機は、送信機のバッテリー残量が低下（6% ~ 10%）するとアラート音が鳴ります。電源ボタンを押すと、バッテリー残量低下のアラート音はキャンセルできます。バッテリー残量が 5% 未満になると、アラート音が鳴り、重度のバッテリー残量低下をお知らせします。このアラート音はキャンセルできません。

タッチ画面

ホーム

送信機には、DJI Fly アプリがプリインストールされています。送信機の電源を入れると、DJI Fly アプリのホーム画面に入ります。



フライスポット

近くの適切な飛行場所や撮影場所を表示または共有、GEO 区域の詳細を確認、他のユーザーが撮影した様々な場所の航空写真をプレビューできます。

アカデミー

上部右のアイコンをタップするとアカデミーに入ります。製品チュートリアル、飛行のヒント、飛行安全に関する注意、およびマニュアルを確認できます。

アルバム

機体や DJI Fly アプリのアルバムにある写真と動画を表示します。

SkyPixel

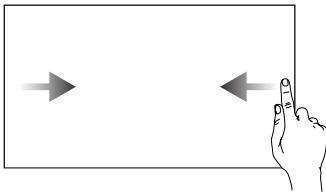
SkyPixel では、DJI 製品ユーザーが共有するビデオや写真を表示できます。

プロフィール

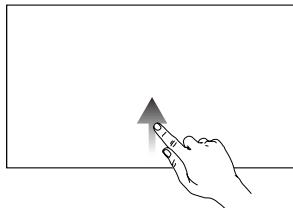
アカウント情報や飛行記録を表示、DJI フォーラムやオンラインストアにアクセス、ドローンを探す機能や、ファームウェア更新／カメラレビュー／キャッシュデータ／アカウントのプライバシー、言語などを設定できます。

DJI RC は様々な機体に対応するため、DJI Fly の画面は機体モデルによって多少異なる場合があります。詳細については、その機体のユーザーマニュアルの「DJI Fly アプリ」のセクションを参照してください。

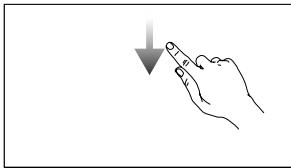
操作



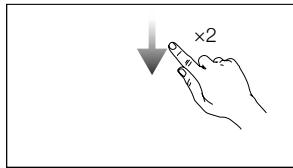
画面の左または右から中央にスワイプすると、前の画面に戻ります。



画面の下部から上にスワイプすると、DJI Fly に戻ります。

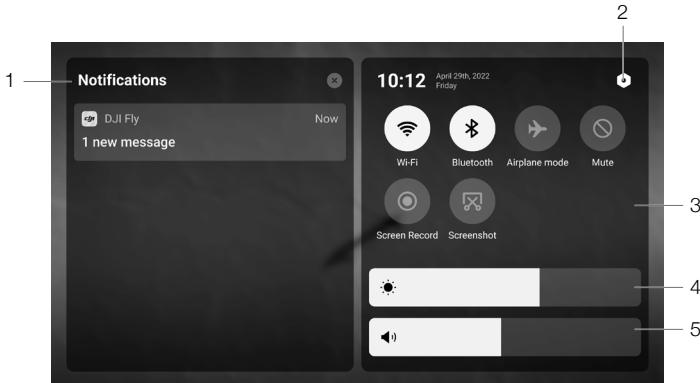


DJI Fly で、画面の上部から下にスワイプすると、ステータスバーが開きます。ステータスバーには、時間、Wi-Fi 信号、送信機のバッテリー残量などが表示されます。



DJI Fly で、画面の上部から下に2回スワイプすると、[クイック設定] が開きます。

クイック設定



1. 通知

タップするとシステム通知を確認できます。

2. システム設定

❶をタップすると、[システム設定]にアクセスし、Bluetooth、音量、ネットワークなどを設定します。また、ガイドを表示して、制御とステータス LED の詳細を確認することもできます。

3. ショートカット

◇：タップして Wi-Fi を有効または無効にします。長押しすると設定画面に移動し、Wi-Fi ネットワークを接続または追加します。

*：タップすると、Bluetooth を有効または無効にします。長押しすると設定画面に移動し、近くの Bluetooth デバイスと接続します。

▶：タップすると、[機内モード] が有効になります。Wi-Fi と Bluetooth が無効になります。

ⓧ：タップするとシステム通知がオフになり、すべてのアラート音が無効になります。

◎：タップすると、画面収録が開始します*。この機能は、microSD カードを送信機の microSD スロットに挿入した後に使用できるようになります。

☒：タップすると、スクリーンショットを撮ります。この機能は、microSD カードを送信機の microSD スロットに挿入した後に使用できるようになります。

4. 明るさの調整

バーをスライドして画面の明るさを調整します。

5. 音量の調整

音量を調整するには、バーをスライドします。

*送信機が DJI Mavic 3 とリンクしている場合、録画時の伝送映像のフレームレートは 30fps まで低下します。

コンパスのキャリブレーション

電波干渉のある場所で送信機を使用した後は、コンパスのキャリブレーションが必要な場合があります。送信機のキャリブレーションを行うには次の手順に従ってください。

1. 送信機の電源を入れ、[クイック設定] に移動します。
2. ●をタップしてシステム設定に入り、下にスクロールして [コンパス] をタップします。
3. 画面上の指示に従ってコンパスをキャリブレーションしてください。
4. キャリブレーションが成功すると、プロンプトが表示されます。

ファームウェア更新

送信機が機体とリンクされている場合は、新しいファームウェアが利用可能になるとプロンプトが表示されます。プロンプトをタップして、指示に従い送信機を更新します。更新が完了すると、送信機は自動的に再起動します。更新処理中は、送信機がインターネットに接続されていることを確認してください。

- 💡 • 送信機には DJI Fly アプリがプリインストールされています。機体とリンクされていなくても送信機の更新ができます。送信機の電源をオンにし、DJI Fly アプリのホーム画面に移動します。[ブロフィール] > [設定] > [ファームウェア更新] > [ファームウェア更新の確認] の順にタップして、指示に従って送信機を更新します。

- ⚠️ • 更新する前に、送信機のバッテリー残量が 20%以上あることを確認してください。
• 更新には約 15 分かかります。更新データのダウンロードにかかる時間は、インターネット速度により異なります。更新中は、送信機がインターネットに接続されていることを確認してください。

付録

仕様

伝送

伝送システム

異なるハードウェア機器構成の機体と使用する場合、DJI RC 送信機は、必要なファームウェアバージョンを自動で選択・更新し、リンクされた機体モデルのハードウェア性能において利用可能な伝送技術を使用します。機体モデルと利用できる伝送技術は以下の通りです：

- a. DJI Mini 3 Pro : O3
- b. DJI Mavic 3 : O3+

動作周波数範囲

2.4000 ~ 2.4835GHz、5.725 ~ 5.850GHz^[1]

最大伝送距離

(障害物、電波干渉のない場合)

DJI Mini 3 Pro と併用時：12 km (FCC)、8 km (CE/SRRC/MIC (日本))
DJI Mavic 3 と併用時：15 km (FCC)、8 km (CE/SRRC/MIC (日本))

伝送電力 (EIRP)

2.4 GHz : <26 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本))
5.8 GHz : <26 dBm (FCC)、<23 dBm (SRRC)、<14 dBm (CE)

信号伝送範囲

(FCC)^[2]

DJI Mini 3 Pro と併用時：

強い干渉 (例：市内中心部) : 約 1.5 ~ 3 km

中程度の干渉 (例：郊外、小さな町) : 約 3 ~ 7 km

干渉なし (例：農村地域、ビーチ) : 約 7 ~ 12 km

DJI Mavic 3 と併用時：

強い干渉 (例：市内中心部) : 約 1.5 ~ 3 km

中程度の干渉 (例：郊外、小さな町) : 約 3 ~ 9 km

干渉なし (例：農村地域、ビーチ) : 約 9 ~ 15 km

Wi-Fi

プロトコル

802.11a/b/g/n

動作周波数

2.4000 ~ 2.4835 GHz、5.150 ~ 5.250 GHz、5.725 ~ 5.850 GHz (日本国内では、5.8 GHz 帯は使用不可)

伝送電力 (EIRP)

2.4 GHz : <23 dBm (FCC)、<20 dBm (CE/SRRC/MIC (日本))
5.1 GHz : <23 dBm (FCC/CE/SRRC/MIC (日本))
5.8 GHz : <23 dBm (FCC/SRRC)、<14 dBm (CE)

Bluetooth

プロトコル

Bluetooth 4.2

動作周波数

2.4000 ~ 2.4835 GHz

伝送電力 (EIRP)

< 10 dBm

一般

バッテリー容量

5200 mAh

バッテリータイプ

Li-ion

材料

LiNiMnCoO₂

動作電流／電圧

1250 mA@3.6 V

充電タイプ

USB Type-C

定格出力

4.5 W

ストレージ容量

対応する microSD カード

DJI RC 送信機対応の microSD カード

UHS-I スピードクラス 3 規格以上

DJI RC 送信機推奨 microSD カード	SanDisk Extreme 64GB V30 A1 microSDXC SanDisk Extreme 128GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme 512GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 64GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 256GB V30 A2 microSDXC SanDisk Extreme Pro 400GB V30 A2 microSDXC SanDisk High Endurance 64GB V30 microSDXC SanDisk High Endurance 256GB V30 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 64GB V30 A2 microSDXC Kingston Canvas Go Plus 256GB V30 A2 microSDXC Lexar High Endurance 64GB V30 microSDXC Lexar High Endurance 128GB V30 microSDXC Lexar 633x 256GB V30 A1 microSDXC Lexar 1066x 64GB V30 A2 microSDXC Samsung EVO Plus 512GB microSDXC
充電時間	1 時間 30 分 @5V 3A 2 時間 20 分 @5V 2A
動作時間	4 時間
動作環境温度範囲	-10°C ~ 40°C
保管環境温度範囲	1 ヶ月未満 : -30°C ~ 60°C 1 ~ 3 ヶ月 : -30°C ~ 45°C 3 ヶ月 ~ 6 ヶ月 : -30°C ~ 35°C 6 ヶ月超 : -30°C ~ 25°C
充電温度範囲	5°C ~ 40°C
対応機体モデル ^[1]	DJI Mini 3 Pro DJI Mavic 3
GNSS	GPS+BEIDOU+Galileo
重量	390 g
モデル	RM330

[1] 5.8 GHz は、地域の規制により、日本を含む一部の国ではご利用いただけません。

[2] FCC に準拠し、障害物がなく、一般的な干渉環境下で測定。このデータはあくまで参考用の値であり、実際の飛行距離を保証するものではありません。

[3] DJI RC は、今後、DJI の他のドローンモデルにも対応する予定です。公式サイトで最新情報をご確認ください。

お問い合わせはコチラ



連絡先
DJI サポート

本内容は変更されることがあります。
最新版は下記よりダウンロードしてください



www.dji.com/rc/downloads

本書についてご質問がある場合は、以下にメッセージを送信
して DJI までお問い合わせください。DocSupport@dji.com

DJI は、DJI の商標です。
Copyright © 2022 DJI All Rights Reserved.